高級ワイン取引、2026年第3四半期に27.0%増 2022年以来の高水準

米国業者による熟成ボルドーの買い戻しを受け、9月の価格は小幅上昇。英国の需要は引き続き慎重

2026年11月18日（水）



Liv-exによると、9月までの3カ月間の高級ワイン市場は、2022年半ば以降で最も好調な四半期となった。取引が大幅に活発化し、長期にわたる下落局面を経て、主要価格指数も小幅に上昇した。

Liv-exは「2026年第3四半期 高級ワイン市場レポート」で、市場は7月と8月におおむね横ばいで推移した後、9月に持ち直したと報告した。Fine Wine 100指数は9月に1.1%上昇し、より広範なFine Wine 1000指数も0.6%上昇した。同取引所は、価格変動だけでは市場環境の変化を十分に捉えられないと指摘。2022年後半から2025年にかけて、買い手の多くがさらなる値下がりを待ち続け、市場の信頼感が大きく損なわれていたためだという。

Liv-exによると、約1年にわたる価格の安定が一部の買い手の回帰を後押ししたとみられ、特に米国では、業者が特定カテゴリーの在庫を補充する必要もあった。2026年第3四半期の取引金額は前四半期比で27.0%、前年同期比で32.3%増加した。米国の買い手が関税を警戒していた2025年第1四半期を除くと、2026年第3四半期の取引金額は2023年第3四半期以来、四半期として最高となった。それでも、2025年第1四半期を4.8%、2023年第3四半期を1.2%下回った。

取引量も同様の推移を示した。Liv-exによると、2025年第1四半期を除けば、2026年第3四半期は2022年第1四半期以来、取引量が最も多い四半期となった。取引量は2025年第1四半期を4.7%、2022年第1四半期を18.9%下回っており、取引は活発化したものの、過去のピークには戻っていないことが分かる。

レポートは、回復の度合いには依然としてばらつきがあると指摘した。ワインごとの動きは大きく異なり、特に生産量の多い近年のヴィンテージは、古いバックヴィンテージほど底堅くない。回復の兆しが見られるワインでも、上昇はおおむね一様ではないという。また、英国とアジアの市場では買い付けが不安定で、在庫向けの購入はほとんど見られないとしている。

需要に最も大きな変化が見られたのは米国だった。Liv-exによると、関税ルールが明確になった2025年7月末以降、米国からの買い注文と購入が積み上がり、2026年第3四半期に加速した。米国の購入額は前四半期比で57.1%増え、2024年第4四半期以来の高水準に達した。同取引所によると、業者は関税を回避する方法を見いだし、年末商戦を前に在庫を選別的に積み増していた。

この変化は熟成ボルドーで特に顕著だった。レポートによると、米国による2011年以前のボルドーの購入額は、2026年第2四半期比で204.4%増加し、2025年平均を153.3%上回った。Liv-exは、この買い手層の回帰が重要なのは、米国の顧客が市場の他の層より高価格帯の商品を購入する傾向があるためだと指摘した。

対照的に、英国市場は慎重な姿勢を崩していない。Liv-exによると、同市場の購入額は2026年第2四半期比でわずか0.8%増にとどまり、2025年第3四半期と2025年平均のいずれも下回った。レポートは、多くのコレクターが今もセラーを満たした状態にあり、業者が在庫用に買い付けることはまれだと指摘。英国の業者はむしろ販売に注力している。年初来の英国の取引活動に占める販売の割合は61.4%で、2025年通年の57.2%、2019年の56.2%から上昇した。

Liv-exによると、こうした変化の背景には、資金を確保したいコレクターの意向がある。ただし、売り手が売却するには、現実的な価格水準を受け入れる買い手が必要だ。同取引所は、市場の安定によって買い手が納得できる水準で購入に踏み切りやすくなっており、12カ月前と比べて売却は実現しやすくなっていると述べた。

レポートは、市場の改善を、強弱入り交じる経済環境の中に位置づけた。S&P 500が新たな高値を付けるなど株式市場が堅調なことや、Anthropicなどによる大規模な新規株式公開が計画されていることを挙げる一方、投資家の間では人工知能バブルへの懸念も高まっている。また、イランでの戦争がインフレ圧力と金利上昇予想の要因となり、債券市場では政府の借り入れに対する抵抗が強まって増税の可能性が高まっていると指摘した。英国の高級ワイン購入は主に個人コレクターに支えられているため、資産への安心感を損なう動きがあれば、需要はすぐに打撃を受けかねないとLiv-exは述べている。

Liv-exの意思決定インテリジェンス責任者、トム・バーチフィールド氏は、市場は新たな段階に移行しつつある可能性があると述べる一方、回復が確かなものになったと判断するには時期尚早だと警告した。近年のヴィンテージは依然として需要を集められず、一部では在庫水準も高いままだという。また、米国の買いが持続するかどうかは、年末商戦後も見極める必要があるとした。さらに、価格の全般的な安定と取引量の増加は、市場が「回復の次の段階」に入りつつある可能性を示す初期の兆候だと述べた。